

## CKD(慢性腎臓病)について(CKDとは)

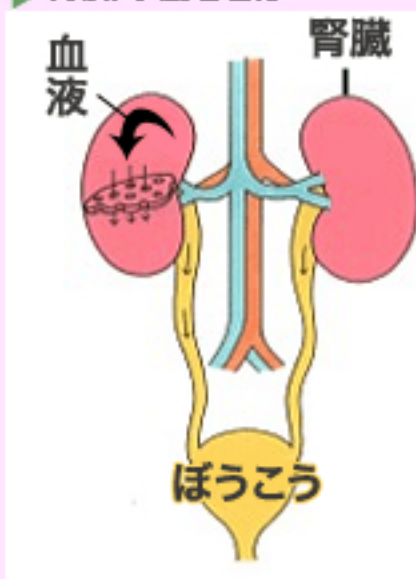
### ▶CKD(慢性腎臓病)について(CKDとは)

最近注目されるようになっているCKDをご存知ですか？

Chronic Kidney Disease の略で「慢性腎臓病」のことであり、新しい腎臓病の概念です。CKDは私たちの生活を脅かす新たな『国民病』と言えます。

CKDは腎障害を示す所見や腎機能低下が慢性的に続く状態で、放置したままにしておくと末期腎不全となって、人工透析や腎移植を受けなければ生きられなくなってしまいます。現在、世界でも、日本でも、透析患者さんの数は増えています。

### ▶腎臓の働きとは



腎臓は腰の辺りに2個あり、そらまめのような形をした、握りこぶしくらいの大きさです。腎臓は1個が150gほどの小さな臓器ですが、心臓から送り出される血液の20%以上が流れており、毎日200Lもの血液をろ過して、老廃物を尿として体外に排泄し、体の中をきれいに保ちます。

その他にも、体液の量や浸透圧・血圧の調整を行ったり、ナトリウム・カリウム・カルシウムなどのミネラルや酸性・アルカリ性のバランスを保ったり、さらには血液を作るホルモンを分泌する、骨を健康に保つ、といった多くの働きがあります。

私たちの健康において重大な役割を担っており、まさに【肝腎かなめ】の臓器です。

### ▶CKD(慢性腎臓病)とは

CKD(慢性腎臓病)とは、腎臓の働き(GFR)が健康な人の60%以下に低下する(GFRが60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満)か、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が続く状態を言います。

年をとると腎機能は低下していきますから、高齢者になるほどCKDが多くなります。高血圧、糖尿病、コレステロールや中性脂肪が高い(脂質代謝異常)、肥満やメタボリックシンドローム、腎臓病、家族に腎臓病の人がいる場合は要注意です。

さらにCKDは、**心筋梗塞や脳卒中**といった**心血管疾患の重大な危険因子**になっています。

### ▶CKD(慢性腎臓病)の定義

下記のいずれか、または両方が3か月以上続いている状態

- 腎障害：タンパク尿などの尿異常、画像診断や血液検査、病理所見で腎障害が明らかである状態
- 腎機能の低下：血清クレアチニン値を基に推算した糸球体ろ過量(eGFR)が60ml/分/1.73m<sup>2</sup>未満の状態

### ▶『岡崎 CKD 連携パス』について

以前は、CKDは「軽度腎機能異常」として比較的軽く扱われていましたが、そのまま放置すると「腎不全に進行し、透析を要する」という危機感から、最近は「CKDとして、しっかりと治療していくべき」という考えになってきています。

岡崎市民病院の腎臓内科も、このCKDには積極的に取り組んで下さっており、当医院も『**岡崎 CKD 連携パス**』を利用して岡崎市民病院の腎臓内科と密に連絡をとり、CKD患者さんの治療・管理を両院で行っています。

具体的には、定期的通院にて当医院でCKDの治療を行いつつも、3か月～6か月に一度の割合で岡崎市民病院の腎臓内科へも受診していただき、FAXにて双方の検査データや治療方針についての情報のやり取りをしています。